SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

コラム編

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース 公開日: 2018-04-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 市山, 修平, 菅, 翔太, 中村, 佳会, 高橋, 啓汰, 鷹股, 彩乃, 望月, 淳平, 園田, 将也, 介川, 春佳, 和出, 幹人 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00024979

コラム編

山へ続く道
（介川撮影）

実習の回想

市山修平

今回のフィールドワーク実習は、予想外のハプニングが多く、自分自身の至らなさを強く実感した。しかし、入山の人々の調査への寛容さや仲間、先生方の助言に助けられ、今回の報告書を完成させることができた。貴重な体験になったことは間違いない。調査地となった入山の人たちは勿論、先生方や仲間たちに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

写真１　玉鉾旅館
今回のフィールドワーク実習で宿泊先となった旅館。
実習中にふるまわれた桜えびの美味しさは忘れられない。

写真２　入山八幡宮
今回の調査対象となった八幡祭の舞台となる神社。
実習中は何度も足を踏み入れた。

のんびりとしたFW

菅翔太

FW 中は皆寝不足だったような気がする。インタビュー内容の文字起こしを夜遅くまで行い、朝は七時に起床。電車の音で寝られなかった人もいたようだ。だがこと私に関しては寝不足とは無縁の生活を送っていた。インタビュー内容が薄いわけではなかったが、何故か私は夜 11 時頃には文字起こしが終わってしまい、皆が頑張っている中一人だけ部屋で寝ているという、なんとも空気の読めないというか、恨まれそうなことをしていた。適当にしていたわけでもないんだけれど……。

FW 初日に高橋君、和出君、園田君と共に散歩をしていたときだった。当初私は由比川と人びととの関わりというふうにテーマ設定をしていて、高橋君や和出君に背中を押される形で、由比川で釣りをしている人へ話を聞きに行った。下の写真は川で取ったらしいエビである。他にも鮎の写真なども撮った。私の実家の近くにも川があって、鮎が泳いでいたので、なんだか懐かしい気分に浸れた。インフォーマントへインタビューしに行く際も、インフォーマントの車に乗ることが多かったし、全体的にストレスフリーな FW だったなあと今思う。

深夜の勉強部屋

中村佳会

実習期間中、玉鉾の一室を勉強部屋として使わせていただいた。夜はここに全員集合してパソコンにまとめる作業を行う。せっかく聞いたお話を忘れてしまわぬように、その日のうちに聞き取り調査のメモを整理するのだ。この夜の作業時間がなかなか過酷だった。慣れない調査や入山への登山でへとへとになっていても、皆眠い目をこすって夜遅くまで頑張っていた。ついにむかえた最終日の夜、一人また一人と作業を終えて自室に戻っていくなか、区切りのつかない私はこの部屋に残っていた。最終日ということで打ち上げがあったので、お酒も入り集中力なんかとっくに切れている。空っぽの頭はいくら酷使しても使い物にならず、明日には帰れるはずなのになんとなく実習が永遠に終わらないような気がしていた。

4 時近くまでねばってようやく一区切りついた。よし寝ようと立ち上がった時、ふとこの様子を写真に収めておきたいと思った。

無法地帯化した勉強部屋を見渡すと、なんだか妙な達成感を味わえる。ガムをひっきりなしに口に入れて毎晩なんとか乗り切っていた。しんどかったけれど、振り返ってみれば皆で一つの部屋で作業するのは結構楽しかったなあとも思う。研究者の苦しみをほんの少し味わえて、修学旅行みたいなわくわくもほんの少し思い出せた実習だった。

入山散策

高橋啓汰

今回のフィールドワークでは、由比の方々の優しさを日々感じながら調査を進めることができたため、忘れられない思い出となりました。

この写真は、入山を散策しているときに、入山親水公園で撮った１枚です。入山の自然を感じながら、仲間と一緒に散策をするという穏やかなひと時を過ごすことができました。
この数時間後には仲間とは離れ離れになり、1 人で入山から宿まで歩くことになるのですが、運動不足の大学生にとってはとても良い運動になりました。

私は基本的に１人で調査をする機会が多く、宿でも１人で黙々と仲間の帰りを待ちながら作業をするということもありました。それでも、インフォーマントの方々の優しさに助けられ、寂しさなどは全く感じないで自分のペースで調査を進めることができました。最後に、入山から宿に帰る際に出会ったかわいい鳥の写真を紹介します。近づいても全く逃げなかった心優しいこの鳥には、フィールドワークで一番心が癒されました。

由比の方々はもちろん、鳥までもが心優しい由比はとても素晴らしいところでした。本当にありがとうございました。

実習の思い出

鷹股彩乃

毎日の玉鉾のご飯。全部おいしかった。

いろいろ大変だったけど、みんなと過ごした時間がなんだかんだ楽しかった。

（左）調査中何度ものぼった坂道。運動不足を痛感させられた。
（右）手作りのぬいぐるみ。子どもがお年寄りに教わったものだそう。かわいい。

お世話になった地域の方々との写真が全然なくて、それが唯一の心残りです…。
初対面の私に温かく接して下さり、本当にありがとうございました！！！
またいつか遊びに行きます！！！

入山でのお昼ごはん

望月淳平

皆さんは、旅先をどんな風に思い出しますか。私は、そこにしかない景色や、そこでの会話をはっきりと覚えていられたらいいな、と思うことがあります。けれど、私が実際に思い出すのは、食べ物のことばかりです。山形で食べた芋煮、福岡で食べたゴボウの入ったうどん、私立大学の受験の為に一人で行った東京で食べた、牛丼。そんなことばかり、思い出してしまいます。

私達は、由比で五日間フィールドワーク調査を行いました。特に山側について話しを聞かせて頂いたので、日中は山側で過ごしました。海の近くにある宿で朝食を頂き、意気揚々と山側に向かいます。本当に、貴重なお話をたくさん聞かせて頂きました。

ただ、昼食に関して、私達は本当に苦労しました。主な調査地であった入山地区には、コンビニも飲食店もありません。6 月の前半でしたが既に気温は高く、衛生上の問題からおにぎり等を持っていくことはできませんでした。普段は食べてばかりいる私ですが、調査中は、川沿いに座ってカロリーメイトを齧って空腹を紛らわすことしか出来ませんでした。

そんな中、一度だけ美味しいお弁当を食べることが出来た日がありました。それは、調査 3 日目のことでした。

私と、一緒に行動していた介川さんが二人で入山親水公園で座ってノートの整理をしてたところ、近くに 1 台の車が止まりました。降りてきたご夫婦に挨拶させて頂いたところ、この近く住んでいる方に会いに来たとのことでした。それから、そのまま車に乗せて頂き、私達二人もお邪魔させて頂きました。そして、そこでも貴重なお話を聞かせて頂きました。その方は、お話に出てきた野菜や夏みかんを、実際に御馳走してくださいました。夏みかんが甘かった。本当に美味しかった。後から思い出し、お話よりも夏みかんに夢中になっていなかったか不安になったほどです。

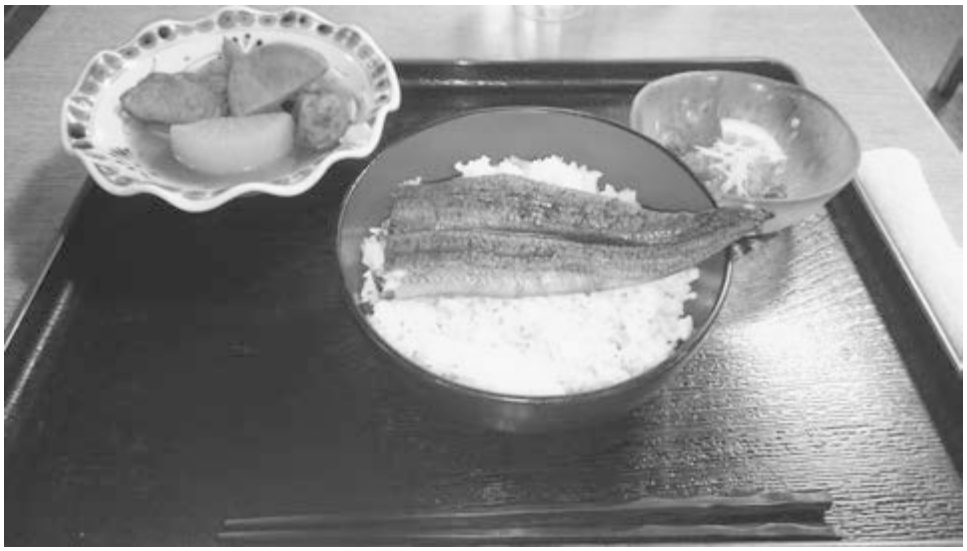
そして、私達二人の前に、お弁当が置かれました。街で買ってきたからどうぞ、とのことでした。大きく立派なお弁当でした。遠慮する気持ちがなかったわけではないのですが、何より空腹でしたので、その優しさに大いに甘えてしまいました。そのお弁当を、僕は良く思い出します。白米と鮭と、から揚げなどが入っていたはずです。青いパッケージに、船の絵が書いてあった気がします。優しさに感謝しながら、おかずまで全て頂きました。予想外の昼食を頂き、幸せな気分だったのを覚えています。

この調査の中で、私は多くの親切を受けました。由比の方々は、見ず知らずの私達に、本当に良くしてくださいました。あのお弁当は、そのことを何度も思い出させてくれるのです。

由比でいただいた海の幸

園田将也

2017（平成29）年６月第一週に静岡県静岡市清水区由比の入山に５日間ほどフィールドワーク調査に行きました。旅館での食事は港町由比ならではの海の幸がたくさん出されました。私たちが泊まった玉鉾では、由比ならではの海の幸である桜エビをほとんど毎朝、毎晩のように食べることができました。貧乏な私のような学生が普段滅多に食べることのできない高級な桜エビを贅沢に振る舞っていただけたので非常に驚きました。また桜エビ以外にも驚くような食材をいただけました。それは、なんとウナギです！フィールドワーク実習の中日に疲れがピークに達していたときに予想もしてなかったウナギが出されたのです！実習中は調査が思うように進まないストレスや、近くを通るＪＲの始発の音に起こされてしまい寝不足で疲労が溜まっていましたが、突然のウナギの登場に心の中でテンションが上がっていました。このうなぎのおかげで調査を乗り切れたかもしれません。（笑）



写真：おでんとうなぎと生しらす（園田撮影）

さて、今回の調査は下調べを含めて１年間ほどの時間をかけました。事前調査や、報告書を書くのは非常に大変でしたが、非常に密度の濃い時間を文人コースのみんなと過ごすことができました。思い返せば、様々な苦労や失敗等苦い思い出もたくさんありましたが、由比の大変多くの方々に暖かいご協力をしていただき、無事に調査を終えることができました。お忙しい中にもかかわらず貴重なお時間を割いていただいた方、資料を提供していただいた方、急な訪問にも快く応じてくださった方、拙い質問にも真剣に答えてくださった方、至らない私に協力してくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

心温まるおすそわけ

介川春佳

調査 4 日目（水）の朝 8 時、私たちは昼飯を買ったことを確認し、入山へ向かいました。9 時に事前にアポイントメントを取っていた方を訪問し、1 時間ほどお話を聞かせていただきました。そして 10 時過ぎ、次にインフォーマントさんとお約束をしていたのは、午後 1 時でした。

あと 3 時間…さて何をしようか…。

入山へ向かう「ゆいばす」は月曜日と水曜日と金曜日のみ運行していて、1 日 4 本しかありませんでした。そのため、一旦宿に戻り、情報を整理したり休憩したりすることは難しく、徒歩移動は約 40 分を要するので、宿と入山の往復で 1 時間以上使ってしまうのはもったいないと感じました。入山自治会長の望月さんが私たちのために開けてくださった公民館を利用させていただこうか、天気もいいことだし散歩に行こうか…と考えながら、入山の入り口あたりにある、入山親水公園の駐車場にて時間を持て余していました。

すると、駐車場にて 1 台の車が止まり、あるご夫婦が「何をしに来ているの？」と声をかけてくださいました。そのご夫婦は草薙に住んでおり、娘さんが入山の方とご結婚し、その旦那さんのご両親に会いに来ているとのことでした。私が山で採れる山菜や畑で採れる作物に関する調査をしている旨を伝えると、「今迎えを待っているところだから一緒に来て、畑を見せて貰ったら？」とお誘いいただきました。

車に乗りお家まで着くと、畑を案内していただくだけではなく、お家の中にまでお邪魔させていただきました。冷蔵庫から、お家で育てているミカンや自家製のキャラブキなど、たくさん机の上に出していただきました。どれもこれも美味しくて、ついついたくさん食べてしまいました…！中でもミカンは自然なさわやかな甘みがあって、格別に美味しかったです！また本当は草薙から来たご夫婦が食べる予定だったお弁当もいただき…。至れり尽くせりおもてなししていただきました。

お話を聞かせていただいたり畑を見させていただいたりしたことはもちろん、いきなり来た私たちを優しく温かく接してくれたことが本当に嬉しかったです。お腹も胸もいっぱいになりました！本当にありがとうございました。

入山を散策してみて

和出幹人

私はテーマの性質上、徒歩で入山の地区内を散策することがとても多かったです。その道中で出会えた方たちや、そこからつながりのある方々を紹介してもらい、円滑に調査を進めることができました。私が本調査でかかわりを持つことができた入山の方々は温かく私達を受け入れてくれて本当に助かりました。

写真１　　入山の山中　（和出撮影）

写真１は私が空いた時間に１人で山道を散策したときのものです。このときは、目的もないままま２時間ほど歩き続けていました。山道を進めば進むほど人の気配がなくなり、そのかわりに、動物のフンや足跡などをたくさん見つけることができました。山道を歩いている際に、近くの茂みから「ガサッ」と音がすると、人間ではないことは想像できたので、身構えてしまったのはよく覚えています。これは調査が終わった後だから言えることかもしれませんが、せめて１匹くらいは動物の姿を見ておきたかったなと思いました。

私は本調査のほとんどを歩いて散策することに時間を使っていたのですが、「獣害」というテーマを掲げた以上、１度は猟についていって、その様子を調査させてもらうべきだったと今さらながら少しだけ後悔しています。また、機会があれば本調査で得た知識をより深めたり、積極的に活用したりしていけるようにしたいと思っています。

本調査にご協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。